



感染症の予防と対策について

11月15日（水）感染症の予防と対策について講演会を開催しました。

「感染予防（肺炎対策）」 副院長 古賀 英之
「肺炎予防のために大切なこと」 看護師 春口 季実子

肺炎ってどんな病気？

【肺炎とは？】

日常でかかる肺炎は、主に細菌やウイルスなどが肺に入り込んで起こる肺の炎症です。肺炎の原因となる細菌やウイルスは、人の体や日常生活の中に存在します。高齢者や、病気などで抵抗力（免疫力）が弱まった時などは感染を起こしやすく、重症化すれば死に至ることもあります。

【肺炎の現状】

日本の疾患別での死亡者数は、第1位 癌、第2位 心臓病、**第3位 肺炎**で、肺炎での死亡者の96.5%が65歳以上です。

80歳以上の高齢者の死亡原因としては、**第1位 肺炎**です。

若い人の肺炎は減少していますが、高齢者の肺炎は若干増加傾向です。日本の65歳以上における肺炎球菌ワクチン接種率は、28.2%と海外に比べ低いです。（2014年）

【高齢者の肺炎の特徴】

無症候性（セキが出る人は20%と少なく、33%の人に発熱も見られないため、自覚症状がない）、不活発（何かをするにも意欲が湧かない）、食欲不振、意識障害、失禁、脱水

【高齢者肺炎を見逃さないために】

セキ、発熱、悪寒（ゾクゾクとする寒気）などの典型的な症状がないので、呼吸困難がないか、脱水がないか（舌の渇き）、痩せてきてないか（食欲不振）、ぼんやりしてないか（意識レベルの低下）に注意してください。

【高齢者の肺炎死亡の基礎疾患】

1) 脳梗塞 30% 2) 脳出血 11% 3) 骨折 10%（長期臥床） 4) 肺炎を良く起こす 9%

【高齢者肺炎の重症化の原因】

発熱で酸素消費増加、心拍数増加で心不全、食欲不振や飲水低下から脱水、咳嗽（セキ）反射低下から痰（たん）の喀出困難となり気道の浄化能力が低下、若者では肺の40%の肺炎で呼吸不全となるが、高齢者では23%の肺炎で呼吸不全となります。

【肺炎の危険因子】

免疫力の低下、咳嗽（セキ）反射の低下、血行障害、慢性疾患の合併、易感染症（免疫抑制剤などの治療薬）

肺炎予防

【肺炎予防について】

- 1) 細菌やウイルスが体に入り込まないようにする
うがい、手洗い、手指消毒、冬季の外出時のマスク着用（使用の度に新しい物に交換）
- 2) 適切な口腔ケアなど
歯磨き等で口腔内を清潔にする、誤嚥を防ぐ
- 3) 体の抵抗力を強める
規則正しい生活、禁煙、持病を治療する
- 4) 予防接種
インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチン



【肺炎とインフルエンザの関係】

インフルエンザにかかると、肺炎を起こしやすくなります。インフルエンザ肺炎で最も高頻度に検出される細菌は、肺炎球菌です。

【インフルエンザワクチンは効果あるの？】

罹患率：未接種者は、接種者の2倍

死亡率：未接種者は、接種者の3倍

インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンを併用することで、肺炎予防の効果が上がります。両ワクチンの接種勧告対象者

（65歳以上、慢性肺疾患・心疾患、糖尿病、腎不全、免疫不全者、老人ホーム居住者）

【肺炎球菌ワクチン接種の意義】

抗生剤が効かない肺炎球菌（耐性菌）が増加

肺炎を起こす菌の中で最も頻度が高い（28%）

肺炎球菌性肺炎は重症化しやすい

⇒肺炎球菌ワクチンを接種して、予防することが大切



【肺炎球菌ワクチンの種類】

- 1) 英膜多糖体ワクチン（ニューモバックス）
効果持続5年程度、補助あり（5の倍数年齢（1回のみ））
- 2) 結合型ワクチン（プレベナー）

ほぼ永久の効果持続、補助なし、効き目がやや狭い、感染時の速やかな免疫応答が期待できる

次回予告

平成30年3月14日（水） 13:00~14:00

「テーマ未定」整形外科 医師 荻野 美佐 他

詳細は、玄関・外来ロビーなどのポスター、配布案内資料をご覧ください。
皆様のご参加をお待ちしています